

# 多度津町「第2次地球温暖化対策実行計画」 ～平成22年度 実施状況報告～

「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、平成20年度に策定した「多度津町地球温暖化対策実行計画（第2次）」は、第1次実行計画に引き続き、温室効果ガス排出量および数値目標の達成状況等を把握し、温室効果ガス排出の抑制を行うことで、地球温暖化対策の推進に取り組んでいくことを目的として実施しています。

## 計画の概要

- 計画の基準年：平成19年度
- 実行計画期間：平成21年度～平成25年度（5年間）
- 調査対象施設：庁舎を含めた公共施設
- 計画対象温室効果ガス：CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）
- 基準年の温室効果ガス排出量：1,490 t
- 温室効果ガス削減目標：1.5%（目標排出量1,467 t）

## 平成22年度温室効果ガス排出状況

- 平成22年度の温室効果ガス排出量は1,503 tとなり、基準年の排出量に対して0.9%（約13 t）増加しています。
- 温室効果ガス排出源構成では、電気使用による排出量が全体の62.1%を占めています。
- 排出源別温室効果ガス排出量の増減状況は、LPG、都市ガスおよび電気使用による排出量は増加していますが、ガソリン、軽油、灯油、A重油使用による排出量は減少しています。  
⇒LPGは主に厨房・給湯用燃料として使用しており、学校給食調理場での給湯機器の入れ替えにより、燃料がA重油からLPGに切り替わったため、LPG使用による排出量が基準年と比べて大幅に増加しています。

## 温室効果ガス削減に向けての今後の課題

平成22年度の多度津町の温室効果ガス排出状況は、基準年の排出量に対して0.9%削減し、現状では削減目標の1.5%に対して、2.4ポイントの開きが生じる結果となりました。LPG、都市ガスおよび電気使用による排出量が増加していることや排出源構成において電気使用による排出量が最も多い（全体の約62%）ことなどから、電気使用量の削減は本町の温室効果ガスの削減には欠かせない要素であると言えます。そのため、本町では

- 職員の取組に加えて、各施設で空調・照明等の設備の更新を進め、エネルギー効率の向上を図る
  - 職員一人ひとりが電気に関する取組（空調・OA機器・照明）を今後も継続的に実施し、定着する
- などの取組が温室効果ガス削減へ向けた今後の課題となります。

## 節水にご協力をお願いします！



電気使用による排出量のうち水道水を供給するための浄水場やポンプ場などの動力によるものが約20%と最も多くを占めています。町民の皆さんが節水を行うことで、浄水場やポンプ場などでの電気使用量が減り、温室効果ガスの削減につなげることができます。

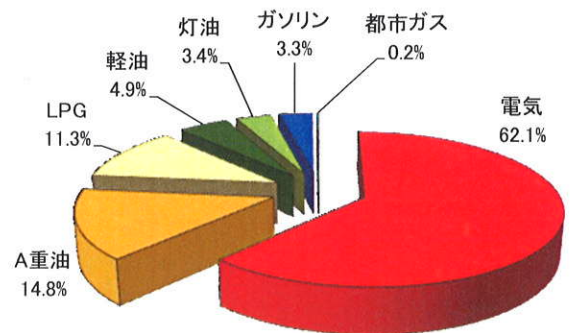
地球温暖化防止に向けて、皆さんのご協力をよろしくお願いします。

## ●温室効果ガス排出量推移

(単位:トン)

年度	温室効果ガス排出量	基準年対比
基準年	1,490	0.0%
H20年度	1,495	0.3%
H21年度	1,435	-3.7%
H22年度	1,503	0.9%
目標値	1,467	-1.5%

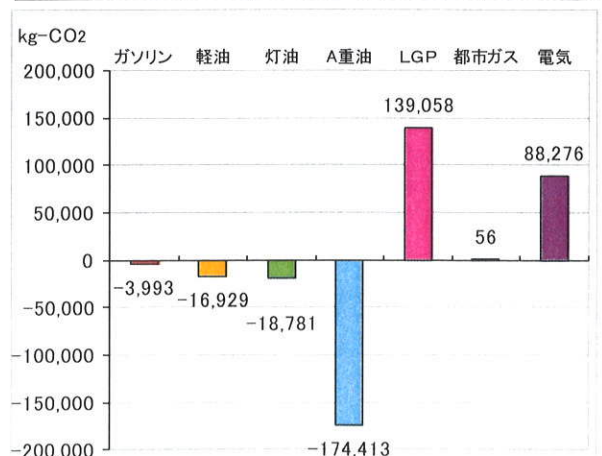
## ●温室効果ガス排出源構成



## ●排出源別温室効果ガス排出量及び増減状況

(単位:トン)

項目	平成19年度 (基準年) 排出量	平成22年度		
		排出量	基準年対比	
燃料	ガソリン	54	50	-7.4%
	軽油	90	73	-18.7%
	灯油	71	52	-26.6%
	A重油	397	222	-44.0%
	LPG	31	171	441.9%
	都市ガス	3	3	2.1%
電気	844	933	10.5%	
温室効果ガス全体	1,490	1,503	0.9%	



# 多度津町「第2次地球温暖化対策実行計画」

## ～平成22年度 実施状況報告～

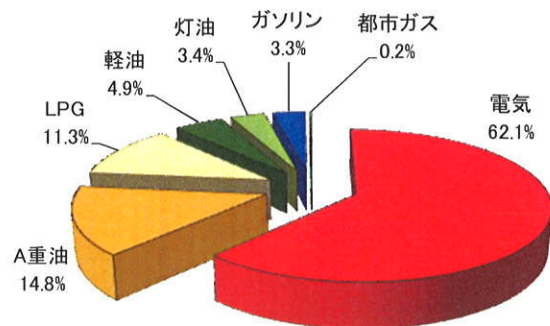
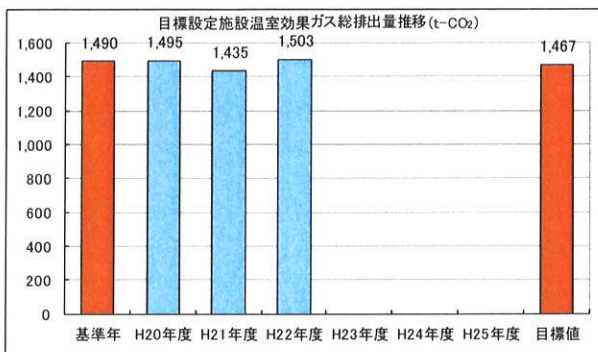
### 1. 「地球温暖化対策実行計画（第2次）」の基本的事項

- 計画期間：基準年を平成19年度とし、実行計画期間は平成21～25年度の5年間とする
- 調査対象：多度津町の全ての事務・事業を対象とし、調査対象ガスはCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）とする
- 削減目標：基準排出量（1,490トン）に対して1.5%削減とする

### 2. 平成22年度温室効果ガス排出状況

#### (1) 温室効果ガス排出量推移及び排出源構成

- 平成22年度排出量：1,503トン（0.9%増加）
- 温室効果ガス排出量の62.1%は電気使用に伴う排出である

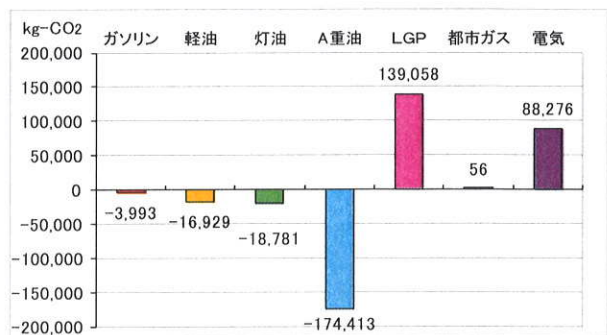


#### (2) 排出源別温室効果ガス排出量及び増減状況

- LPG、都市ガス及び電気使用に伴う排出量は増加しているが、ガソリン、軽油、灯油、A重油使用に伴う排出量は減少し、項目ごとの削減目標を達成している

(単位:トン)

項目	平成19年度 (基準年)	平成22年度		削減目標	
		排出量	基準年 対比		
燃料	ガソリン	54	50	-7.4%	1.5%
	軽油	90	73	-18.7%	1.5%
	灯油	71	52	-26.6%	1.5%
	A重油	397	222	-44.0%	1.5%
	LPG	31	171	441.9%	1.5%
	都市ガス	3	3	2.1%	1.5%
電気	844	933	10.5%	1.5%	
温室効果ガス全体	1,490	1,503	0.9%	1.5%	



### 3. 今後の課題

本町の排出源構成は電気使用に伴う温室効果ガス排出量が全体の約62%を占めており、電気使用量の削減は本町の温室効果ガスの削減には欠かせない要素であると言える。そのため、

- 職員一人ひとりが電気に関する取組（空調・OA機器・照明）を今後も継続的に実施し、定着する
  - 職員の取組に加えて、各施設で空調・照明等の設備の更新を進め、エネルギー効率の向上を図る
  - 地球温暖化や省エネに関する職員の意識向上を図るため、職員に対する情報提供や研修会を行う
  - 電気使用による排出量のうち約20%が浄水場やポンプ場などの動力（モータ）機器の稼働によるものであるため、町民に節水呼びかける
  - 町民が利用する施設については、利用者に協力を求め、町民との協働による取組を行う
- など、職員の取組の継続や設備更新の推進はもとより、町民への普及啓発を図ることが望まれる。